

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上検討委員会構成

鶯敷小学校
「学力向上実行プラン」

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
 ○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実。
 ○ICT活用と学習環境の改善により、学ぶことの楽しさを感じる主体的学びの達成。

学力向上推進員 門田 歩記	委員	【校長】清田 朝美	【教頭】坂田 淳二
		【教務】岸本由加里	【研修】岩佐 美恵子
		【低学年】門田 歩記	
		【中学年】井上 璃咲	
		【高学年】大谷 祐貴	

校長
清田 朝美

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや計算問題などの基礎・基本の習得に真面目に取り組む児童が多い。 ●基礎・基本の定着と既習学習の知識・技能を活用することが十分でない。 ●読書習慣がついていないため、語彙量が少ない。	・個に応じた基礎・基本の知識や技能をスモールステップで確実に身に付け、生活の中で生かす。 ・新聞記事等から必要な情報を取捨選択し、複数の情報を比較・関連づけて考える。 ・読書に親しみながら語彙力を増やし、文章を正確に読み書きし、話す。	①ぐんぐんタイムや家庭学習での漢字・計算の繰り返し学習、定期的なミニテストの実施と達成状況の把握(データ活用)により、基礎学力の定着を図る。 ②毎時、学習への動機付けを明確に行う。個人の理解度の把握・確認を行い、個別最適な学びを実践し、一人一人の基礎学力の定着を図る。 ③読書環境を整え、読書会等の読書への興味が増す企画を通して、読書の楽しさを味わう経験を重ねる。	・読書に対する関心を高める取り組みを継続して行う。 ・視写や音読の活動を積極的に行い、長文の読解力や漢字の定着、さらなる語彙力の向上を図る。 ・徳島版読解力を基に、問題解決の過程をたどった授業を構成する。		

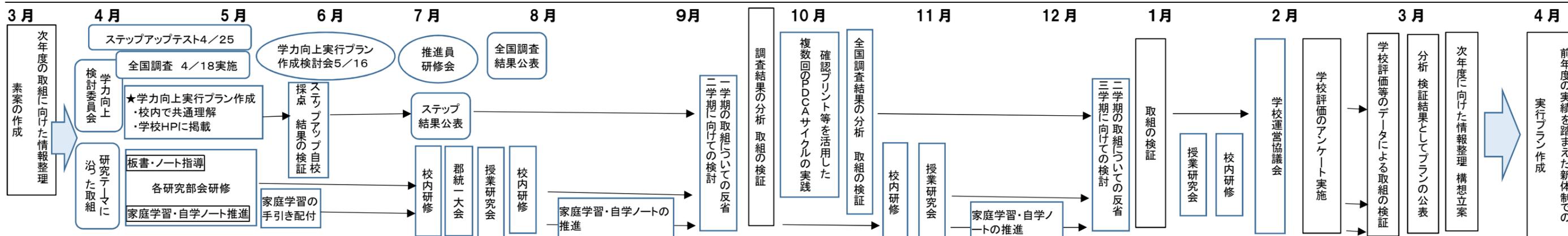
(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学年によって差はあるが、ペアやグループでの話し合い活動を好む児童が多い。 ○体験活動や創作活動に喜んで取り組む。 ●相手の意図を捉えながら話を聞いたり、根拠を明らかにしながら、自分の考えを話したりすることが苦手な児童が多い。 ●大勢の前で自分の考えや意見を話すことが苦手な児童が多い。	・話し手の意図を考えながら聞き、相手や目的に応じて、根拠を示しながら適切に自分の考えを話す。 ・体験や創作活動を通して、自分の考えを広げ、表現しようとする。 ・自他の考えを共有し、新たな考えの価値に気づく。 ・集会等の場で、大勢の他者と言語での交流を楽しむことができる。	①根拠を明確にしながら考えをまとめ、書いたり話したりする機会を設ける。 ②対話的な学習を習慣化し、図表等を使って相手に分かりやすく伝え発表する経験を重ねる。 ③タブレットを活用した他者の考えの共有を日常化する。 ④シンキングツールを学習に取り入れ、効果的に活用できる力を身に付ける。 ⑤全校音読に継続して取り組み、明瞭な発声をするに慣れ親しませる。	・括弧ぬきのプリントを用いることにより、思考の流れを表現する練習を行う。 ・短作文等自分の考えを書く機会を積極的に設け、基本的文法の定着を図る。 ・学習の振り返りを記録に残し、確実に継続することで、学びの深化につなげる。		

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して真面目に取り組むことができる。 ●学習に対する姿勢が受動的であり、自ら課題を見つけ、自力で解決する経験が浅い。 ●環境整備の都合上、タブレットの持ち帰りができず、家庭学習での活用がほぼできていない。	・学習課題に向かうための自分自身の理解しやすい学習方法を知り、自ら選択して取り組む。 ・自分の考えを他者と進んで共有し、考え方と比較しながらさらに考えを深めようとする。	①児童が興味をもって主体的に学習課題に取り組む授業づくりに努める。その際、具体物や資料の提示、体験活動やICTの効果的な活用、学習環境の工夫を積極的に取り入れる。 ②学習の流れや児童の意識を大切に授業づくりを行う。 ③家庭学習や自主学習について共通理解を図り、個別最適な学びを追求する。また、タブレットの持ち帰りを進める。	・児童が討論や協議ができる場を設け、根拠を持って自分の意見を相手に伝えたり、文章の言葉の意味に着目する機会を増やしたりする。 ・学習の振り返りを記録に残し、確実に継続することで、学びの深化につなげる。 ・学校行事に児童の考えを反映させる。		

令和6年度 学力向上ロードマップ



学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- わかりやすい発問により、生徒の思考を深める授業の実践
- 認め合い、話し合い、学び合う授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長
---------	----	----

〇〇学校
「学力向上実行プラン」

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていたり、与えられた課題にもまじめに取り組みたりできる生徒が多い。 ●長い文章を正確に読み取ったり、身に付けた知識等を関連付けたりすることに課題がある。	・学習の過程を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。 ・身に付けた個別の技能についても、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・何が書かれているかを捉えさせるため、教科書にアンダーラインを入れさせる。 ・生徒の興味をもって学習に取り組むことができるように発問を工夫する。 ・他学年、他教科の教員が相互に授業参観を行う。	それぞれの教科における知識等の習得をより徹底させる。さらに、身に付けた知識等を用いて課題を解決させる学習活動の場を増やす。	・アンダーラインを入れさせることはできていたが、少し多く引きすぎた。 ・工夫した発問は多くの場面でできたが、その発問に対する反応を予想することが不十分なときがあった。 ・相互の授業参観を多く行うことができた。	身に付けた知識等を表現するために、「書く」活動の機会を多く取り入れる。身に付けた知識等を実際の場面で活用できるよう、主体的・対話的で深い学びのさらなる実現を推進する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる生徒は多い。 ●課題に応じて、必要な情報等を取り入れたり、自分の考えをまとめたり、複数の考えから新しい考えを創造したりすることに課題がある。	・各授業における課題等に対して、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ・習得、活用、探究の各場面において、適切な言語活動により表現することができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・生徒の発言や発表の内容に応じ、「なぜ」、「どうして」などの更なる発問を行い、生徒の考えを深めさせる。	ペア学習やグループ学習の前に個人で考える時間をしっかりと確保する。また、生徒のつぶやきを全体で共有し、課題の解決を図る機会を設定する。	・ペア学習やグループ学習の機会については適切に設定できた。 ・ホワイトボードを使用した話し合い活動は多くできたが、活用の場面での言語活動は不十分だった。 ・深い学びにつながる発問については、なかなか上手くはいかなかった。	ペア学習やグループ学習の方法、ホワイトボードの使用等では、学校や学年で統一できるところはするなど、より効果的な実践を行う。授業計画の改善を進め、生徒の活用する力のさらなる育成を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業へ一生懸命取り組むことができる。また、家庭学習にも主体的に取り組むことができる。 ●自分の考えを客観的に捉えたり、不得意な学習内容に対して、自分で計画を立てて克服することに課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	・「とくしま授業技術の基礎・基本」にある、ノート指導を徹底する。 ・何を・なぜ・どのように学ぶのが生徒に伝わるよう、授業のめあてを提示する。 ・振り返りの視点を生徒に示し、記述させる。	生徒のつまづきに対して自らの問題の解決の糸口に気づくような助言を与えたり、振り返りシートについて改善を行う。	・ノートについては、ほとんどの生徒が確実に取ることができていたが、自分の考えを書かせることができなかった。 ・授業のめあてをほぼ、提示できた。 ・振り返りはさせることができたが、記述については、不十分なときもあった。	各教科において育成を目指す資質・能力の育成を図れる授業改善を進めると共に、授業のノートの取り方の更なる改善を図る。

令和5年度 学力向上ロードマップ

